

県立病院ではたらく仲間をつなぐ

病院組合ニュース

2026. 1. 21
No.194

愛知県病院事業庁職員組合
〒453-0016 名古屋市市中村区竹橋町36番31号
電話(052)212-8031 FAX(フーアケス)0120-930-340
メールアドレス byoin@aichikenshoku.gr.jp
発行責任者 近藤 陽介



1月14日、アイリス愛知において2026年の運動の始まりとして県職連合「旗びらき」を開催しました。

冒頭田中県職中央執行委員長の挨拶に始まり、大村知事など当局側も来賓として出席されました。参加者の和やかな歓談後、最後に近藤病院組合執行委員長が力強い団結カンパロー三唱を行い、散会しました。

近藤委員長 団結カンパロー

まずは、愛知県職員組合の皆様に、日ごろから当局側との交渉に全力を注いでいただきありがとうございます。これからも協力していきますのでよろしくお祈りします。

さて、少しだけ病院の話させてください。昨今の報道等では、今一般病院の70%以上が赤字と言われています。また、医療従事者の賃上げは一般企業に追い付いていないとも言われています。



2026年度は診療報酬本体が上がると言われています。私たちが病院組合は、ここぞとばかりに、賃上げを含めた職場環境改善を頑張りたいと思っております。よろしくお祈りします。

私たちが病院組合の職場環境改善をする

私たち医療従事者は、患者さんの5年後10年後を見据え、治療・看護を行っています。それは、病院の未来についても同じです。5年後10年後に医療の現場で人手不足となると診療科停止などの医療サービスの低下や患者さんの安全が守れなくなります。それではいけません。よろしくお祈りします。



ことによつて、先ほど知事が言われた「愛知県民約750万人」の県民医療が守られます。

最後に、「組合員の生活と権利を守り高めるため、全組合員が団結してガンパロー、ガンパロー、ガンパロー」三唱をおこない、旗びらきを終了しました。

知事へ小児センターの子どもさんが作った作品をお渡ししました!

☆執行委員
榎 晴美
(精神医療センター・看護師)

今年で3年目になります。新しい委員と力を合わせて組合員の意見をききながらよりよい活動ができればと思っています。

☆執行委員
彦坂 茂樹
(病院事業庁・事務)

組合役員の経験はないですが、精一杯がんばります。

☆監査委員
谷口 和希
(精神医療センター・看護師)

労働組合の健全な運営と組合員の権利保護のために、全力を尽くし責任感をもって監査委員の役割を果たします。

☆監査委員
小松 鉄舟
(病院事業庁・事務)

昨年度より引き続きとなりますが、組合のために微力ながらも尽力させていただきます。

☆拡大執行委員(青年部長)
伊藤 寛太
(小児センター・看護師)

レクリエーションやスポーツ事業を通して、青年部組合員の交流がより活発にできるように尽力します。よろしくお祈りします。

☆拡大執行委員(女性部長)
阪部 千春
(精神医療センター・看護師)

昨年度から組合活動に参加させて頂いています。2年目になるので組合員の為にできる事を精一杯頑張っていこうと思います。

☆拡大執行委員(現評議長)
滝澤 幸二
(がんセンター・調理師)

環境は厳しい状況ではありますが、少しでも良い方向へ進むよう、頑張っていきたいと思っています。

病院組合交流会 「ランチブッフェ」
in マリオットアソシアホテル 15F「パーゴラ」

12月11日(木)・13日(土)にマリオットアソシアホテル「パーゴラ」にて病院組合交流会ランチブッフェを開催しました!! 両日合わせて100名以上の組合員が参加し、おいしいクリスマス仕様のランチやデザートなどに大満足。素敵なホテルのブッフェをお得に楽しみ、少し早いクリスマス会となりました!

ツツエ会場は満席!

抽選で豪華景品が当たるくじ引きをしました! 当選された皆さんおめでとうございます!

ホテルの入り口はスノードーム! がわい!

SWEETSを満足するまで... 食す。

各団体のツリーも気分が上がります!

クワガタのカルボナーラ

クワガタのカルボナーラ

していることも印象的であった。今回聞いた取り組みは若手作家の展示販売の機会をつくったり、活躍している職人がサポーターとなり交流や学びの機会をつくり刺激しあい日本のものづくりの活性化の一助となっていることがわかった。展示ブースでも何点か作品が展示されており手仕事でつくられた工芸品のむくもりや美しさを感ずることができた。工芸品は高いというイメージがあり購入する機会がないが感心を持って購入することが日本の文化を支えることにつながると感じた。

「その生理痛、早くケアしてやりたいことを諦めない毎日を、働く女性の生理との付き合い方」では産婦人科医の稲葉先生とタレントの益若つばささんの対談であった。女性の生理は個人差があるが12歳から5歳の期間で、1年5日×13回で65日間で38年間で合計すると6年9ヶ月以上になるとのこと。数字を聞いて驚いた。4人に3人以上が仕事影響あり、パフォーマンスが半分以下に下がりいるとのことであった。女性ホルモンは2種類あり排卵するために2種類が乱高下すること。PMS（月経前症候群）や生理痛の症状が現れるため、この乱高下を治療でならかにすることでPMSや生理痛を軽減することとであった。治療として低用量ピル、プロゲステロン製剤、子宮内黄体ホルモン放出システムがあり、血栓症や太る副作用のリスクが言われているが実際は副作用は少なくメリット

リーダー達が失敗した時、仕事が上手くいかなかった時は一晩寝て翌日もう一度本来の目的を考える。また変化を楽しむことを心がけた。固定観念を捨てて、どうしたら幸せになれるかを考える。世の中は週、月、単位で変化している。変わることを目的にするのではなく、目指す方向性を決めると人は変われる。中期経営計画（3〜5年後）までしか考えられない管理職がまだ存在する中、グローバル企業は30〜50年後の目標を立てている。今年初の女性首相が誕生したこと、長期目標をたて、より女性の活躍が推進されることを期待する。（がん 立木さん）

「MUGG工芸プロジェクト、夢を紡ぐ日本のものづくり」では三菱UFJフィナンシャルグループが行っている工芸プロジェクトについて若手工芸作家と対談があった。会社として社会問題を解決することの一環として日本のものづくりの文化において「伝統と革新」をテーマにした活動を行い、工芸作家の挑戦の機会や文化の保全と伝承について取り組んでいるとのことだった。1つ目のテーマは「日本のものづくりの技術・手仕事の魅力と可能性について」で、ルイヴィトンや元々木工職人で青年時代から木を扱った仕事を行っておりパリを目指していた。世間で旅行が流

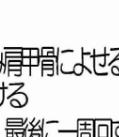
生涯で生理の様子は変わっていくためその時に応じた治療をしていくことの重要性を訴えていたのが印象的だった。（精神 菅沼さん）

セミナーでは日頃から意識をしてメンテナンスをしていくと姿勢は変わる。姿勢が変わるとあらゆる身体の不調も和らぐと聞き半信半疑ながらも信じてみようと思えました。身体が変わると気持ちも明るくなり若返る。私よりも一回り年上である講師のKAORUさんの美しい姿勢とハツラツとした感じがそれを証明しており、私もこのままではいけないと衝撃を受けました。いつまでも若々しく素敵な女性になりたいと強く感じました。人生折り返しの年代です。いつまでも若々しい身体に変えてこれからの人生楽しく輝かせたいと、そんな自分になりたいたと、私にも目標ができました。セミナーでは毎日出来る簡単なストレッチなどを教えてもらいま

座りながらでもできる手のブラブラ運動や肩甲骨を広げるストレッチなど筋肉をほぐす事を意識するだけで循環が良くなり、自然と身体が軽くなるのでおすすめです！

肩甲骨ストレッチ
1.両手を後ろに組んで肩甲骨を寄せる
2.腕を前に伸ばして肩甲骨を広げる

首ストレッチ
1.両手を後ろにくみ肩甲骨によせる
2.左右に首を傾げる
3.上下左右に傾げ、最後に一周回す



（精神 塚本さん）

WOMAN EXPO 2025 Winter

自分らしく輝くすべてのワーキングウーマンのために

11月29日（土）東京ミッドタウンにおいてWOMAN EXPO 2025 Winterが開催されました。組合員から6名参加しました。そのレポート第2弾をお届けします！

「女性だけでなく誰もが活躍できる社会」

1985年に男女雇用機会均等法が制定されたが、女性の日本社会における活躍は先進国の中では未だ低い水準にとどまっている。ジェンダーギャップ指数は世界で125位で女性管理職比率は30%を目標にしているが、まだそれを満たしている組織は少ない。社会における女性活躍のために今後の管理職/リーダーの育成が不可欠ではないだろうか？それについて以下に述べる。

女性が活躍する要因には組織全員活躍の促進、組織の成長促進、組織の風土改革の促進、良い人材の獲得が関わっており、女性活躍から組織全員活躍の推進へとつながっていく。管理職/リーダーの育成も必要である。マネージメントは管理ではなく、リーダーシップをとることであり、ミドルリーダー、モチベーター、コーチ、ファシリテーターの役割を担うことである。リーダー達がこれまでのキャリアを振り返ると、30代くらいまでは自分はどうなりたいかばかり考えていて、燃え尽き症候群になっていた。そんな時に結婚、出産、子育てをしている中でバックオフィスの仕事が増え、任される業務が変わってきた。また部下の成長が楽しみにようになってきた。

リーダー達が失敗した時、仕事が上手くいかなかった時は一晩寝て翌日もう一度本来の目的を考える。また変化を楽しむことを心がけた。固定観念を捨てて、どうしたら幸せになれるかを考える。世の中は週、月、単位で変化している。変わることを目的にするのではなく、目指す方向性を決めると人は変われる。中期経営計画（3〜5年後）までしか考えられない管理職がまだ存在する中、グローバル企業は30〜50年後の目標を立てている。今年初の女性首相が誕生したこと、長期目標をたて、より女性の活躍が推進されることを期待する。（がん 立木さん）



「MUGG工芸プロジェクト、夢を紡ぐ日本のものづくり」では三菱UFJフィナンシャルグループが行っている工芸プロジェクトについて若手工芸作家と対談があった。会社として社会問題を解決することの一環として日本のものづくりの文化において「伝統と革新」をテーマにした活動を行い、工芸作家の挑戦の機会や文化の保全と伝承について取り組んでいるとのことだった。1つ目のテーマは「日本のものづくりの技術・手仕事の魅力と可能性について」で、ルイヴィトンや元々木工職人で青年時代から木を扱った仕事を行っておりパリを目指していた。世間で旅行が流

行り、トランクづくりをはじめ自分の店を出したことがはまりだったと言いつは初耳であった。また、壊れた陶磁器を漆で修復する「金継ぎ」という日本の伝統技法があり、割れたものに価値があるというヨーロッパではない概念が今流行しているとのことであった。デニムにおいてもアメリカから入ってきたものであり日本の岡山や広島で織物技術を取り入れジャパネンデニムが生まれているところだった。例にあがったものは伝統を守りながらリノベーションして現在のもので受け継がれているものであった。七宝焼は中国から日本に入ってきたものであるが日本の釉薬が一つ美しいと言われていることや日本で生まれた有線七宝というものの存在も知ることがで

きた。染飾については海外にはない、プリントではない日本の独自のものとして発展していることも知ることができた。2つ目のテーマは「「好き」を磨き「夢」を仕事にするについて」で、ギャラリーオーナーをされている作家はギャラリーを外から丸見えの空間でつくり、芸術家を目指す人が初めてやる場所を提供しているとのことだった。また、見せ方で何倍にもよく見える、見せ方で興味がかわるといことが印象的でした。見せる場がない、自分の作品を魅力的に見せたいと考えている作家のサポートにもなっていると感じた。染飾作家は染めたい生地があっても個人では手に入りにくいことから会社を作った、会社経営をしながら作家として活動

夢を紡ぐ日本のものづくりなど

「好き」を磨き「夢」を仕事にするについて